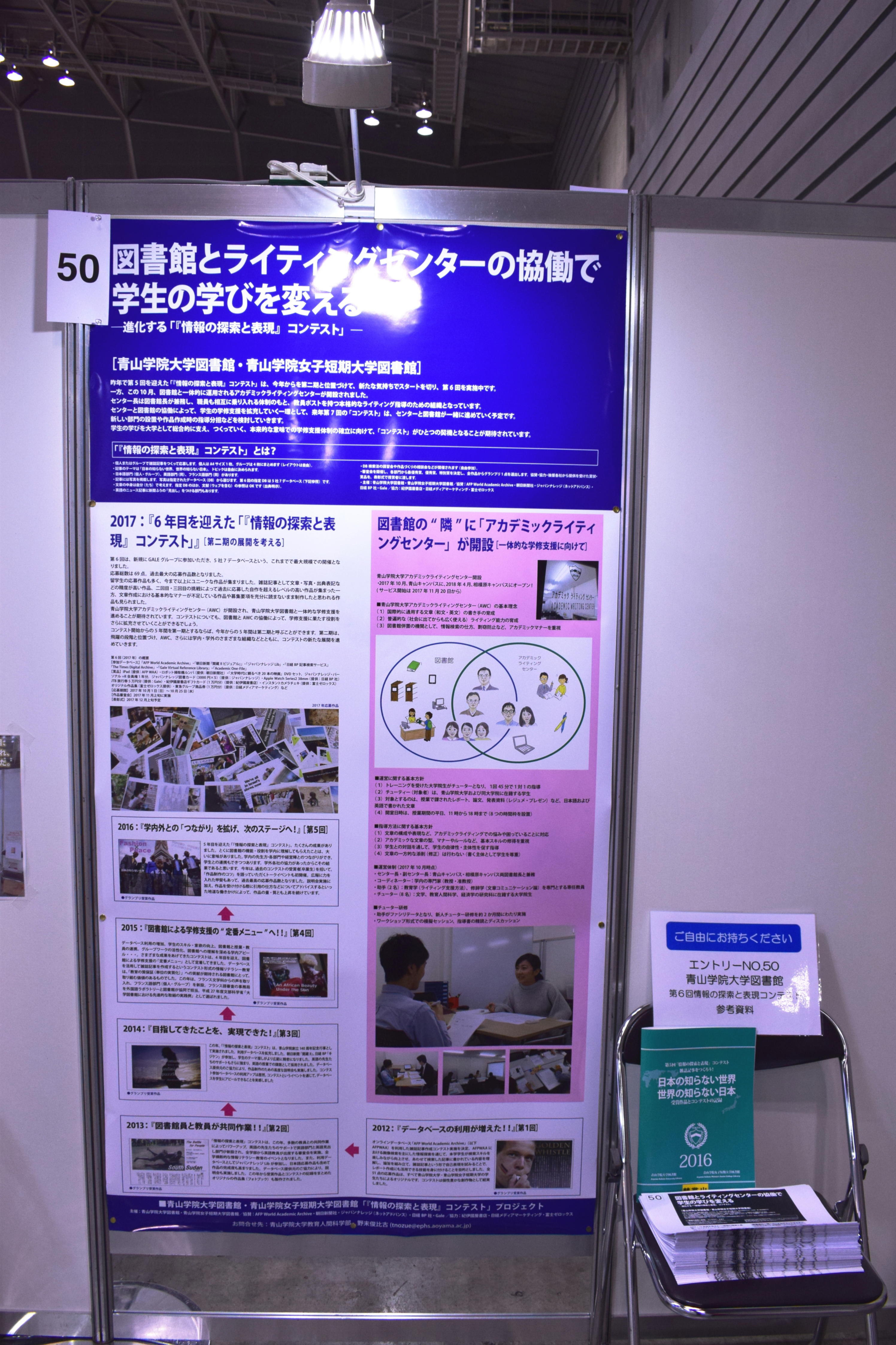

50

図書館とライティングセンターの協働で学生の学びを変える

—進化する「『情報の探索と表現』コンテスト」—

[青山学院大学図書館・青山学院女子短期大学図書館]

昨年で第5回を迎えた「『情報の探索と表現』コンテスト」は、今年からを第二期と位置づけて、新たな気持ちでスタートを切り、第6回を実施中です。
一方、この10月、図書館と一体的に運用されるアカデミックライティングセンターが開設されました。
センター長は図書館長が兼務し、職員も相互に乗り入れる体制のもと、教員ポストを持つ本格的なライティング指導のための組織となっています。
センターと図書館の協働によって、学生の学修支援を拡充していく一環として、来年第7回の「コンテスト」は、センターと図書館が一緒に進めていく予定です。
新しい部門の設置や作品作成時の指導分担などを検討していきます。
学生の学びを大学として総合的に支え、つくっていく、本来的な意味での学修支援体制の確立に向けて、「コンテスト」がひとつの契機となることが期待されています。

「『情報の探索と表現』コンテスト」とは？

- 個人またはグループで雑誌記事をつくって応募します。個人はA4サイズ1枚、グループは4枚にまとめます（レイアウトは自由）。
- 記事のテーマは「日本の知らない世界、世界の知らない日本」。トピックは自由に決められます。
- 日本語部門（個人・グループ）、英語部門（同）、フランス語部門（同）があります。
- 記事には写真を掲載します。写真は指定されたデータベース（DB）から選びます。第6回の指定DBは5社7データベース（下記参照）です。
- 文章の中身は自分（たち）で考えます。指定DBのほか、文献（ウェブを含む）の参照はOKです（出典明示）。
- 英語のニュース記事に新聞ふうの「見出し」をつける部門もあります。
- DB検索法の講習会や作品づくりの相談会などが開催されます（自由参加）。
- 審査会を開催し、各部門から最優秀賞、優秀賞、特別賞を決定し、全作品からグランプリ1点を選出します。協賛・協力・後援各社から提供を受けた賞状・賞品を、表彰式で授賞者に渡します。
- 主催：青山学院大学図書館・青山学院女子短期大学図書館／協賛：AFP World Academic Archive・朝日新聞社・ジャパンナレッジ（ネットアドバンス）・日経BP社・Gale／協力：紀伊國屋書店・日経メディアマーケティング・富士ゼロックス

2017：『6年目を迎えた「『情報の探索と表現』コンテスト」』[第二期の展開を考える]

第6回は、新規にGALEグループに参加いただき、5社7データベースという、これまでで最大規模での開催となりました。
応募総数は69点。過去最大の応募作品数となりました。
留学生の応募作品も多く、今まで以上にユニークな作品が集まりました。雑誌記事として文章・写真・出典表記などの精度が高い作品、二回目・三回目の挑戦によって過去に応募した自作を超えるレベルの高い作品が集まった一方、文章作成における基本的なマナーが不足している作品や募集要項を充分に読まないまま制作したと思われる作品も見られました。
青山学院大学アカデミックライティングセンター（AWC）が開設され、青山学院大学図書館と一体的な学修支援を進めることが期待されています。コンテストについても、図書館とAWCの協働によって、学修支援に果たす役割をさらに拡充させていくことができるでしょう。
コンテスト開始からの5年間を第一期とするならば、今年からの5年間は第二期と呼ぶことができます。第二期は、飛躍の段階と位置づけ、AWC、さらには学内・学外のさまざまな組織などとともに、コンテストの新たな展開を進めていきます。

第6回（2017年）の概要
【参加データベース】「AFP World Academic Archive」・「朝日新聞『聞蔵IIビジュアル』」・「ジャパンナレッジLib」・「日経BP記事検索サービス」「The Times Digital Archive」・「Gale Virtual Reference Library」・「Academic One-File」
【賞品】iPad（提供：AFP WAA）・ロボット掃除機ルンバ（提供：朝日新聞社）・「大学時代に観るべき20本の映画」DVDセット，ジャパンナレッジ・パーソナル+R会員権1年分，ジャパンナレッジ図書カード（3000円×5）（提供：ジャパンナレッジ）・Apple Watch Series2 38mm（提供：日経BP社）JTB旅行券5万円分（提供：Gale）・紀伊國屋書店ギフトカード（1万円分）（提供：紀伊國屋書店）・インスタントカメラチェキ（提供：富士ゼロックス）オリジナル作品集（富士ゼロックス提供）・東急グループ商品券（1万円分）（提供：日経メディアマーケティング）など
【応募期間】2017年10月1日（日）～10月25日（水）
【作品審査会】2017年11月上旬に実施
【表彰式】2017年12月上旬予定

2017年応募作品

2016：『学内外との「つながり」を拡げ、次のステージへ！』[第5回]

5年目を迎えた「『情報の探索と表現』コンテスト」、たくさんの成果がありました。とくに図書館の機能・役割を学内に理解してもらえたことは、大いに意味がありました。学内の先生方・各部門や経営陣とのつながりができ、学生との連携もできつつあります。学外各社の協力があったからこその結果であると思います。今年は、過去のコンテストの受賞者（卒業生）を招いて、「作品制作のコツ」を語っていただくトークイベントも初開催。広報に力を入れた甲斐もあって、過去最高の応募作品数となりました。説明会実施に加え、作品を受け付ける際に引用の仕方などについてアドバイスするといった地道な働きかけによって、作品の量・質とも上昇を続けています。

●グランプリ受賞作品

2015：『図書館による学修支援の“定番メニュー”へ！！』[第4回]

データベース利用の増加、学生のスキル・意欲の向上、図書館と授業・教員の連携、グループワークの活性化、図書館への理解を深める学内アピール・・・。さまざまな成果をあげてきたコンテストは、4年目を迎え、図書館による学修支援の「定番メニュー」として定着してきました。データベースを活用して雑誌記事を作成するというコンテスト形式の情報リテラシー教育は、「教育の質保証（単位の実質化）」への貢献が期待される図書館にとって、取り組む価値のあるものでした。この年は、フランス文学科からの声を取り入れ、フランス語部門（個人・グループ）を新設。フランス語審査の事務局を外国語ラボラトリーと図書館が協同で担当。平成27年度文部科学省「大学図書館における先進的な取組の実践例」として選ばれました。

●グランプリ受賞作品

2014：『目指してきたことを、実現できた！』[第3回]

この年、「『情報の探索と表現』コンテスト」は、青山学院創立140周年記念行事として実施されました。利用データベースを拡充しました。朝日新聞「聞蔵II」、日経BP「キジケン」が参加し、学生のテーマ探しがより広範に精密になりました。英語の先生たちのサポートもさらに強まり、英語の授業での課題として採用されました。データベース提供元のご協力により、作品制作のための高度な説明会も実施しました。コンテスト参加データベースの利用アップは歴然。コンテストというイベントを通じて、データベースを学生にアピールできることを実感しました

●グランプリ受賞作品

2013：『図書館員と教員が共同作業！！』[第2回]

「情報の探索と表現」コンテストは、この年、多数の教員との共同作業によってパワーアップ。英語の先生たちのサポートで英語部門と英語見出し部門が新設され、全学部から英語教員が出席する審査会を実施。全学横断的な情報リテラシー教育のイベントとなりました。また、利用データベースとしてジャパンナレッジLibが参加し、日本語応募作品も含めて作品の完成度も高まりました。データベース提供元のご協力により、説明会も実施しました。この年から受賞作品とコンテストの記録をまとめたオリジナルの作品集（フォトブック）も製作されました。

●グランプリ受賞作品

2012：『データベースの利用が増えた！！』[第1回]

オンラインデータベース「AFP World Academic Archive」（以下AFPWAA）を利用した雑誌記事作成コンテスト実施を決定。AFPWAAにおける画像検索を主にした情報探索を通じて、本学学生が検索スキルを楽しみながら向上させ、あわせて検索した記事に書かれている内容を理解し、論旨を組み立て、雑誌記事という形で自己表現を試みることで、レポート作成にも活用できる技能を身に付けることを目的としました。全51点の応募作品は、すべて青山学院大学・青山学院女子短期大学の学生たちによるオリジナルです。コンテストは個性豊かな創作物として結実しました。

●グランプリ受賞作品

図書館の“隣”に「アカデミックライティングセンター」が開設 [一体的な学修支援に向けて]

青山学院大学アカデミックライティングセンター開設
・2017年10月、青山キャンパスに、2018年4月、相模原キャンパスにオープン！
（サービス開始は2017年11月20日から）

■青山学院大学アカデミックライティングセンター（AWC）の基本理念
（1）国際的に通用する文章（和文・英文）の書き手の育成
（2）普遍的な（社会に出てからも広く使える）ライティング能力の育成
（3）図書館併置の機関として、情報検索の仕方、剽窃防止など、アカデミックマナーを重視

■運営に関する基本方針
（1）トレーニングを受けた大学院生がチューターとなり、1回45分で1対1の指導
（2）チューティー（対象者）は、青山学院大学および同大学院に在籍する学生
（3）対象とするのは、授業で課されたレポート、論文、発表資料（レジュメ・プレゼン）など、日本語および英語で書かれた文章
（4）開室日時は、授業期間の平日、11時から18時まで（8つの時間枠を設置）

■指導方法に関する基本方針
（1）文章の構成や表現など、アカデミックライティングでの悩みや困っていることに対応
（2）アカデミックな文章の型、マナーやルールなど、基本スキルの修得を重視
（3）学生との対話を通して、学生の自律性・主体性を促す指導
（4）文章の一方的な添削（修正）は行わない（書く主体として学生を尊重）

■運営体制（2017年10月時点）
・センター長・副センター長：青山キャンパス・相模原キャンパス両図書館長と兼務
・コーディネーター：学内の専門家（教授・准教授）
・助手（2名）：教育学（ライティング支援方法）、修辞学（文章コミュニケーション論）を専門とする専任教員
・チューター（8名）：文学、教育人間科学、経済学の研究科に在籍する大学院生

■チューター研修
・助手がファシリテータとなり、新人チューター研修を約2か月間にわたり実施
・ワークショップ形式での模擬セッション、指導書の精読とディスカッション

■青山学院大学図書館・青山学院女子短期大学図書館「『情報の探索と表現』コンテスト」プロジェクト

主催：青山学院大学図書館・青山学院女子短期大学図書館／協賛：AFP World Academic Archive・朝日新聞社・ジャパンナレッジ（ネットアドバンス）・日経BP社・Gale／協力：紀伊國屋書店・日経メディアマーケティング・富士ゼロックス

お問合せ先：青山学院大学教育人間科学部　野末俊比古（tnozue@ephs.aoyama.ac.jp）

ご自由にお持ちください

エントリーNO.50
青山学院大学図書館
第６回情報の探索と表現コンテ
参考資料

第5回「情報の探索と表現」コンテスト
雑誌記事をつくろう！
日本の知らない世界
世界の知らない日本
受賞作品とコンテストの記録
2016
青山学院大学図書館
青山学院女子短期大学図書館